

読売新聞 きょう（5月2日）のイチ押し

一面 三菱UFJ・三井住友 銀行ATM共同運営

三菱UFJ銀行と三井住友銀行は、現金自動預け払い機（ATM）を共同運営する方向で最終調整に入りました。コストを抑えるため、現金の輸送や障害時の対応などを共同で行い、将来的にはATMの開発で提携するほか、地方銀行にも参加を呼びかけることを検討します。本紙独材です。

- ★ 三菱UFJ銀は約7000台、三井住友銀行は約4500台のATMを設置しています。コスト削減の効果で、ATMやインターネットバンキングを利用する際の手数料引き下げにつながる可能性があります。
- ★ 低金利の長期化で、大手行や地銀の経営環境は悪化しており、ATMの維持費が重荷になっていました。

社会面 高齢者ワクチン混乱

新型コロナワクチンの高齢者接種で混乱が生じています。京都市では、問い合わせの殺到を恐れて、接種を担う医療機関の9割が名前の公表を拒み、どこに予約すればいいのか、わからない状態になっています。

- ★ 京都市にはワクチンが配分される医療機関が700施設あります。このうち名前を公表したのは82施設だけです。
- ★ 医療機関が公表に応じないのは、ワクチンの供給量が少ない上、予約が殺到すると日常の診療に支障をきたすからです。
- ★ 堺市でも医療機関への問い合わせが相次ぎ、市が設定した予約開始日の前に、医療機関が独自に「仮予約」を受けざる事態になっています。

他紙と比べて

毎週日曜日に掲載している「デジライフ」はITについてわかりやすく解説しています。本日は、医療保険の対象となった禁煙治療アプリを紹介しています。禁煙治療薬を服用するとともに、たばこを吸うと上昇する呼気中の一酸化炭素濃度を測定してアプリに記録し医師と共有します。データをもとに正確な診断ができます。